

明るく花や実のつく屋敷林 鹿島・宮崎宅と神明社林を見学

10月4日(土)のカイニョ見学会は、砺波市鹿島の宮崎保治さん宅と鹿島神明社で行いました。会員と地区の方26名が参加し、明るさのただよう屋敷林と庄川扇央部の安定した社叢の神明社を見学、意見交換しました。

宮崎さん宅では、主人の保治さんが屋敷林の状況を案内。

1. 15年前、屋敷林の一部いいが台風で倒れたことに加え、暗いと言って強い枝おろしをした。又除草剤も散布し、樹木を痛めた。
2. 庭は、昭和49年に造った。前庭の中心のマツクサゴヨウ親父が植えた。
3. 屋敷内が明るく、草が一層茂るようになり、10年前から心を入れ替え、樹木を入れた。いろいろな時の記念樹としてサクラ、クス、ウメ、カシ、キンモクセイ等だ。花が咲き、管理がよくて実のなるものだ。
4. その雪釣りはしないし、今では草の生長もおさえるようになった。

このあと、屋敷林内を見学し、スギ高木と近年入れた樹木の組合せのおもしろさや、大きなクリや●●の存在も●た。

柏樹代表幹事は、次のような説明を加えた。

1. スギ倒木、強度の枝おろし●に●●して広葉樹と花木を入れて明るい屋敷林が出来つつある。
2. 屋敷林は、木の力を自然態で引き出し成立するもの●まで大・小の木を植えることだ。
3. 庭は人手がかかり、木をいじめて喜ぶもの。屋敷林は木の力と姿を楽しみ共生する場だ。
4. 老人と子どもが力を出し合い、木と一緒に生きることによって屋敷林が元気になる。
5. あと10年、20年後の姿が楽しみな屋敷林だ。

カイニョ掃除・例会は中止
11月中の日程で予定していた大島治彦さん宅のご都合がつかなくなり、その例会は中止します。来春、3月下旬に計画したいと考えています。

元気な鹿島神社樹叢に地区の方の関心も高まる

鹿島神明社は、敷地面積が中庸で樹林全体のまとまりがあり、扇央部の代表的な樹叢。柏樹代表の説明(別項)のあと、地区の吉川時子さんが大樹調査の思い出や子どもの頃のことなどを語ってくれた。

また、和田健さん(会員)は、「ネズコの大木のあることが大変珍しく貴重なこと、ぜひ市の保存林に加えたらよい。また、樹種名で『アテ、アスナロ、ヒバ』は同種のもので、土地によって違った名を使っている。モミはたぶん何かの記念樹として入れたものであろう。」と説明。一同は胸高周囲5m以上のスギ大木を触り、見上げながら、外から見る樹叢と内に入ってみる樹木の姿の違いを実感しあいました。このあと、境内で腰をおろし草餅にお茶で一服しました。

鹿島地区からの参加者から「この森が砺波の中で立派な部類だと言われ、驚いた。」「貴重な木があるというなら樹名もつけておくとよい。」「補植もどんどんやるように考えたい」との意見も出されていました。

見学会当日の様子を北日本新聞と富山新聞が取材してくださいました。

- ### 柏樹代表の神社での説明
1. コンパクトに安定した樹叢で、元気のカタマリ。
 2. スギも「重厚さ」「忍耐」「可能性」を表している。樹齢は300年くらいだ。
 3. この神社林の弱点は、①本殿後ろに敷地もなく、木が入っていないこと。②樹種が少なく、特に中低木がない。③次代をつなぐ木を内側に植えること(ケヤキ、ネズコ、サクラ、エノキ等)——身視の記念樹として考えあうことも大事ではないか。

カイニヨ倶楽部に「北日本新聞地域社会賞」 記念講演会を準備中

10月31日「平成15年度北日本新聞 第54回 地域社会賞」を受賞しました。この伝統のある賞を砺波カイニヨ倶楽部のように発足7年目のたいした活動もしていない会へ与えられたことは、今後への成長に期待の大きさを栄されたものとして受けとめたく思います。当日の受賞敷きには、会員代表として役員の柏樹直樹、天野一男、新藤正夫、出村忍、高木美奈子の5氏が出席しました。

この受賞を祝って次の方々から祝電をいただきました。また、多数の電話もいただきました。(敬称略) 中沖豊富山県知事、安念鉄夫市長、佐伯安一、上田信雅県議、稲垣忠一、嶋村信之

受賞の記念懇親会を11月21日(金)「草の家」で計画しました。こぞって参加し、楽しくこれからを語り合う集いにしてください。

なお、記念行事として特別講演会を12月上旬に計画したらどうか、相●準備中です。